

内閣府だより

LETTER

沖縄県産酒類振興 消費拡大懇話会の 報告書について



URL▶ <http://www8.cao.go.jp/okinawa/osake2006/index.html>



内閣府沖縄担当部局では、『沖縄県産酒類振興・消費拡大懇話会』（座長：尚弘子琉球大学名誉教授）を開催し、県内外の有識者の方々に、沖縄県産酒類の今後の振興策や消費拡大策を議論していただきましたが、この度、報告書（『沖縄のお酒の発展に向けた11の提案』）がまとまりました。本土の有識者の方にも委員となっていたため、これまであまり論じられたため、これまであまり論じられることのなかった新たな視点も多く反映されています。

沖縄県産酒類には、それぞれに、沖縄独自の歴史や気候と強く結びついた魅力がありながらも、その魅力が顕在化したと言えるまでには至っていません。そこで、この報告書では、この魅力を顕在化させるために、①

内閣府沖縄担当部局では、『沖縄県産酒類振興・消費拡大懇話会』（座長：尚弘子琉球大学名誉教授）を開催し、県内外の有識者の方々に、沖縄県産酒類の今後の振興策や消費拡大策を議論していただきましたが、この度、報告書（『沖縄のお酒

の発展に向けた11の提案』）がまとまりました。本土の有識者の方にも委員となっていたため、これまであまり論じられたため、これまであまり論じられることのなかった新たな視点も多く反映されています。

具体的には、「沖縄のお酒を知つてもらう」、「沖縄のお酒を味わつてもらう」、「沖縄への親しみを深めてもらう」とい

う3つの視点から、泡盛などの体系の整理や、県外向けの流通対策、戦略的な製品開発、沖縄の食文化の振興等について提案しています。販売戦略にとどまらず、沖縄県産酒類そのものの魅力を高めるための中長期的な取組みについても言及していることが特徴です。

提案の内容

1 沖縄のお酒を知つてもらう

- 泡盛などの体系を整理してはどうか
- 泡盛などのラベルを整理してはどうか
- コアブランドを確立してはどうか
- PR活動を強化してはどうか
- 観光とリンクした取組みをしてはどうか
- 県外向けの流通対策をしてはどうか

2 沖縄のお酒を味わつてもらう

- 戦略的な製品開発をしてはどうか
- 古酒の積極的な展開をしてはどうか
- 一般消費の拡大に向けた取組みをしてはどうか

3 沖縄への親しみを深めてもらう

- 沖縄のお酒が生まれ、育んできた過程を紹介してはどうか
- 沖縄の食文化の振興をしてはどうか

かりゆしウェアの普及・促進について

LETTER



かりゆしウェアを着用する大臣ら（国会内大臣室にて）
写真提供：内閣広報室

夏季の軽装期間初日の6月1日、安倍総理、高市大臣を中心とする閣僚が、かりゆしウェアを着用し、閣議に臨みました。

また、夏季軽装期間中、沖縄担当部局職員が積極的に着用するとともに、内閣府各部局に購入用パンフレットを配布するなど、沖縄におけるクーリビズの先進事例として、かりゆしウェアの普及・促進に努めています。